

SSKU YKRふあみりー通信

◇2020年3月号 No. 76◇
編集：特定非営利活動法人
全国薬物依存症者家族会連合会
〒121-0813
東京都足立区竹の塚5丁目18-9
竹の塚マンション207
TEL03-5856-4824
FAX03-5856-4827
<http://www.yakkaren.com/>

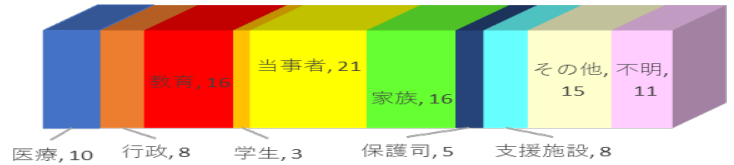
令和元年度文科省委託依存症予防教育推進事業 **1月13日（月・祝）**

依存症予防群馬教室 参加113名

文科省委託令和元年度依存症予防教育推進事業の、本年度最後の「依存症予防群馬教室」が1月13日高崎市総合保健センターで開催されました。



群馬教室参加者所属（人）



今回は、群馬ダルクと共催、高崎市・高崎市教育委員会・群馬県・群馬県教育委員会から後援を受け、高崎市立中学校や県立高校、群馬県養護教諭会、前橋保護観察所通じ県内全保護司の方々等関係機関にチラシを配布、当日は医療・教育・行政関係者等113名が参加、熱気あふれる教室になりました。

依存症当事者やその家族の体験や思いが、参加者に伝わり・・・

まず登壇したのは群馬ダルクKさん。「母子家庭、水商売に出かける母親が化粧をするのを見るのが嫌だった。酒を飲み、朝まで帰ってこない母、弟の面倒を見るため走って帰ってきて夕食を何とか作る生活。小学校から万引きをし、『もらった』と嘘をつき自分を守った。いろんな男を連れ込み、母が殴られる場面も見てきた。中3の時鑑別所から出ると、妹が生まれ、自分しかやる人がいないので赤ん坊の妹を育て、そういう生活が嫌でお酒を飲んだ。中学卒業後シンナー、危険ドラッグにハマり、そして女性に暴力をふるう、絶対なりたくないと思った大人になった」と壮絶な体験を語り、「そこで出会ったのがダルク。居場所ができ、仲間ができ、今まで母親を理由にしてきたが、全部自分のしたこと、自分の人生なんだと思えるようになった。今は、心を開ける仲間がいる。一緒に回復していきたい」と話を結びました。

そして、ネット・ゲーム依存症者の家族としてウラウさんが、薬物依存症者の家族として群馬ダルク家族会の竹内さんが、本人との辛いバトルの日々を語ると共に、家族も家族会の中で自分自身の問題に気づき、元気になることができたこと家族会の大切さを訴え、群馬大学社会情報学部伊藤賢一先生、赤城高原ホスピタル院長竹村道夫院長の思いのこもった基調講演と共に全登壇者によるトークセッションが行われました。



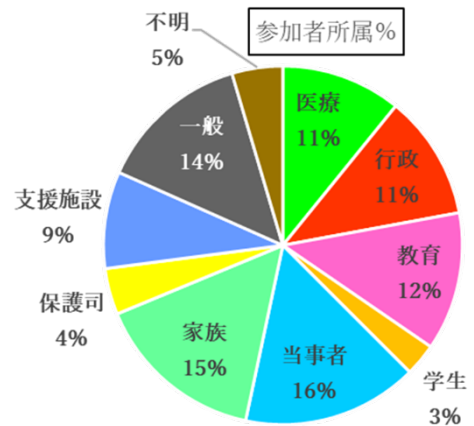
トークセッション 右から伊藤賢一先生、竹村道夫院長

令和元年度文科省委託依存症予防教育推進事業終了

「大変参考になった！！」3教室で240名参加

昨年度に続き文科省から委託を受け実施した「依存症予防教育推進事業」が終了しました。開催地の県・市の自治体と教育委員会から後援を受け、群馬教室は群馬ダルクとの共催で開催。会場近隣の中高校の教諭と生徒(保護者)、保護司、関係機関にチラシ配布すると共に地元新聞の掲載も依頼、77団体の協力を得ながら取り組みました。

参加者240名の内、回復施設・当事者・家族を除く参加者は60%（右図）。



項目	山形教室	富山教室	群馬教室
チラシ枚数	10,000	8,000	10,000
後援団体	山形県・山形県教育委員会・山形市・山形市教育委員会・山形県養護教諭連絡協議会・山形県依存症関連問題研究会	富山県・富山県教育委員会・富山市・富山市教育委員会	群馬県・群馬県教育委員会・高崎市・高崎市教育委員会
協力・広告	山形新聞	富山新聞社・北日本新聞社	上毛新聞社
チラシ配布先	市立10中学校・県立8高校・保護観察所他15団体	市立11中学校・県立3高校・保護観察所他6団体	市立15中学校・保護観察所他6団体

このような講演会等に参加したことがありますか？

ない
43.2%

今回の教室はいかがでしたか？

大変参考になった
92.6%

3教室(山形・富山・群馬)アンケート結果

受講前と後での変化が大きかったもの

1位 使用障害や依存症の相談や治療を助けてくれる機関・団体について

知らない
38.6% → 5.1% Δ33.5%
「よくわかった」「大体わかった」
55.7% → 94.3% +38.6%

2位 使用障害や依存症の自助グループについて

「あまり知らない」
34.1% → 4.5% Δ29.6%
「よくわかった」「大体わかった」
59.1% → 94.9% +35.8%

止められなくなるのは本人の性格や意思の問題だと

「思わない」
ネット・ゲーム 52.8% → 68.8%
薬物 56.8% → 73.3%

「現場（医療、学校、家族、当事者）の声が参考になります」「参加して本当に良かった」「休日の開催がありがたい」「ネットゲーム・スマホ依存の話が聞いて良かった」等数多くの声が寄せられました。

また、トークセッションはどの会場でも「もう少し時間が欲しかった」等の声がきかれ来場者を引き込み群馬教室開催の記事が上毛新聞社会面に掲載される等、依存症問題の啓発につなげることができました。